

2024年 年頭所感

総長 日高 義博



明けまして、おめでと
うございます。コロナ感
染が減少傾向に転じてい
るとはいえ、さまざまな
感染症が流行し、まだ気
を抜けない状況です。今
年は更にキャンパスに活
気があることを願いな
がら、新春を迎えました。

正月の箱根駅伝には、
残念ながら出場がかな
いままです。ユニホー
ムに「S」の一字を付
けて走ることのできる伝
統校として、来年は箱根
路に復帰することを願
っています。文武両道を旨
として、学生・卒業生の
諸活躍を応援したいと思
います。

世界情勢はめまぐるし
く変化し、人間の尊厳を
保持することがいかに難
しいかを考えさせる事
態が目につくようになり
ました。大学における学
問の追求は、社会の状況
変化に無縁ではありません
が、研究・教育が「社会
の中であって社会に立つ」
人材を育成することにつ
ながっていないければ、高
等教育機関としての存在
価値はありません。本学
の21世紀のビジョンは
「社会知性の開発」であ

学生・卒業生の力漲る活躍を期待

り、その具現化のため
は、建学の精神を背負
て、「社会の中であって
社会に立つ」専修人を育
成することが必要です。

現在、生き残りをかけ
た大学間競争の時代に突
入しています。私学にあ
っては、財政基盤の確立
を図って自立することも
に、大学運営においては
自らを律することが求め
られます。専修大学創立
150年・石巻専修大学
創立40年に向けた大学改
革が進行中です。今年
も、学生、教職員はも
より、オール専修の力を
結集し、目標達成に向け
て尽力することが肝要で
す。総合力において私大
10位以内に入るとい
う目標は、特に重要です。学
生・卒業生の活躍は、
大学での教育成果の証
しであり、多様な人材を
輩出しているか否かは、
大学の総合力を測る基準
になります。大学に入学
した、卒業したというだ
けでは、意味がありません
。在学中に付加価値を
身につけて、社会のさま
ざまな分野で活躍し、信
頼性のある人物になっ
ていくのが、大学評価の指
標なのです。今年も、学
生・卒業生の力漲る活躍
を期待しています。私も
総長として、さまざまな
場で専修スピリッツを説
き、本学の知の発信に尽
力する所存です。

理事長 松木 健一



謹んで新年のお慶びを申し上げま
す。

昨年は学術・スポーツをはじめさ
まざまな分野で学生の皆さんの活
動、活躍が顕著な年でありました。
また、コロナ禍による制限がなくな
ったキャンパスは、学生の躍動感に
満ちあふれていました。

専修大学は、校歌に「世に魁けし
我等が大学」と謳われているよう
に、日本近代化の勃興期、1880

学長 佐々木 重人



謹んで新春のお慶びを申し上げま
す。

2024年を迎え、当職が本年中
に特に取り組むべき課題として考
えていることを以下に記し、新年のご
あいさつに代えさせていただきます
。

1. 26年度からの全学部カリキュ
ラム改正案をとりまとめること
19~20年度に行われた本学での学
部・学科の新設や再編による教育・

学生支えるキャンパス創り推進

対する報恩奉仕の精神を持って、有
為な人材を育成することでその要請
に応えてまいりました。

今日では、建学の精神を現代的
に捉え直し、「社会知性 (Social
Intelligence) の開発」を21世紀ヒ
ューマンに掲げております。社会が大
きく変化し、予測困難な時代におい
ても、社会の中であって社会に立つ
人材の育成を継続していくことが責

務であると考えております。本学が
掲げる社会知性とは、専門的な知識・
技術とそれに基づく思考方法を核と
しながらも、深い人間理解と倫理観
を持ち、地球的視野から独創的な発
想により主体的に社会の諸課題の解
決に取り組んでいける能力です。

今後、社会知性を備えた人材の育成
に専心し、グローバル人材や、プロ
フェッションの世界で自己実現でき
る倫理観を持った人材の育成にも注
力してまいります。

本年も学術文化、スポーツの分野
における学生の活躍を大いに期待し
ています。国家公務員採用総合職試
験、公認会計士試験、司法試験など

の難関国家試験合格を目指す多くの
学生は新年から始動しています。ま
た、今夏に開催されるバリ五輪への
出場権を獲得したボクシング部の原
田周大選手をはじめ、世界選手権や
ワールドユニバーシティゲームズな
どの国際大会での活躍が期待される
選手が多数おります。来年の箱根路
を目指す陸上競技部、野球部、ラグ
ビー部等へのご声援、ご支援も引き
続きお願いいたします。

本年も積極的な学生支援を展開
し、学生の成長を支えるキャンパス
創りを推進してまいります。全国の
校友、育友、関係者の皆様におかれ
ましては、引き続きオール専修のご
支援を賜りますようお願いいたしま
す。本年が夢と希望に満ちあふれた
年でありませう、そして各位のご
活躍を衷心よりご祈念申しあげま
す。



専修大学が取り組む六つの課題

いしている主な項目は、次の通りで
す。

● 地球的視野を陶冶する学部教育、
いわゆる「英語による授業」の充実化
● オンライン授業（オンデマンド
型）の活用等を伴う体育会所属学生
に向けた教育支援
● クオータ制の一部導入や「サマー
インテンシブコース（仮称）」の新
設を踏まえた既存の授業にとらわれ

ない新しい教育プログラムの創出

2. 「生田データサイエンスヒル
ズ」の構築に邁進すること
文科省「数理・データサイエンス・
AI教育プログラム認定制度（応用
基礎レベル）」を24年度中に全学部
で認定されることを目指すと同時
に、ネットワーク情報学部の教育改
革を支援いたします（施設改修等）。

3. 法科大学院と法学部の連携強化
（「法曹コース」の設置）を推進す
ること
本学の法学部と法科大学院が緊密
に連携しながら司法試験をクリアす
るための教育システム（「法曹コー
ス」）設置の認可手続を推進いたし
ます。

4. 大学院文学研究科・修士課程
「ジャーナリズム専攻」を新設す
ること
25年度より大学院文学研究科修士
課程に「ジャーナリズム専攻」を
新設するために必要な手続きを進め
ます。

5. 二部のレガシーを受け継ぐ社会
人教育コンテンツを開発すること
専修大学の原点ともいえる二部教
育のレガシーを受け継ぐため、社会
人教育（「リカレント教育」）実現に
向けた調整を図ります。

6. キャンパスDXの実装化に向け
た取り組みを支援すること
24年度から本格スタートする「S
iUGローカル・スマートキャンパ
ス」を定着させ、今後の進化の方向
性を定めたく思います。

今年もご支援のほど、よろしくお
願い申し上げます。